

瀬戸内海の環境の保全に関する兵庫県計画 指標の状況【R2. 11月現在】

【沿岸域の環境の保全、再生及び創出に関する指標】

※○(進捗が見られた) △(実績が横ばい) ×(さらなる取組が必要) - (その他)

No.	指標名	実績						評価結果		備考 (記入要領に従い入力してください)	
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格		判定※
1	藻場面積	環境省調べ(単年)	年度			S53	H1	H27	実績値が大きいほど良い	△	調査方法に関して、S53及びH1はヒアリング結果等を地図上に記載して面積を測定したものに、H27は衛星画像解析であり、手法が異なる。環境省資料によると、手法の違いによる差(衛星画像解析÷ヒアリング等)は50~100%程度である。実績に関して、前回と比較すると調査手法の差の範囲内であり、概ね横ばいと判断されることから、「△」と評価した。
			ha			1,281	1,105	842			
2	干潟面積	環境省調べ(単年)	年度			S53	H1	H27	大きいほど良い	△	調査方法に関して、S53及びH1はヒアリング結果等を地図上に記載して面積を測定したものに、H27は衛星画像解析であり、手法が異なる。環境省資料によると、H27とH1の手法の違いによる差(衛星画像解析÷ヒアリング等)は60~380%程度である。実績に関して、前回と比較すると調査手法の差の範囲内であり、概ね横ばいと判断されることから、「△」と評価した。
			ha			124	69	106			
3	漁場環境改善面積	稚魚の保護や育成の場となる増殖場等の整備や覆砂等により浅場の環境改善を実施した面積(累計)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	
			ha	1,366	1,379	1,398	1,420	1,445			
4	浅場造成等件数	兵庫県水大気課調べ(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	
			件	1	2	2	1	1			
5	渡り鳥飛来数	ガンカモ類の生息調査(単年)	年度	H26	H27	H28	H29	H30	大きいほど良い	△	前回と比べると減少しているが、過去5年間でみると変動の範囲内であり、「△」と評価した。
			羽	51,012	40,635	34,830	38,998	34,610			
6	養浜箇所数	兵庫県実施数(累計)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	
			箇所	17	17	17	17	17			
7	自然海浜保全地区指定数	環境の保全と創造に関する条例に基づく自然海浜保全地区の指定数(年度末総数)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	
			箇所	3	3	3	3	3			
8	海水浴場の利用者数	市町・県民局へのアンケート(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	-	コロナ禍の影響により、一部で調査を行えない市町等があり、報告可能な海水浴場のみの集計となり評価できないため、「-」と評価した。
			万人	158	169	163	118	76			
9	アサリ類漁獲量	漁業・養殖業生産統計(農林水産省)(単年)	年	H26	H27	H28	H29	H30	大きいほど良い	×	近年、アサリ類の漁獲量は非常に低迷しているが、H30は特に顕著な不漁であったため、「×」と評価した。
			トン	6	4	3	2	0			
10	海底耕耘実施箇所数	海底耕耘の実施箇所数(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	
			箇所	31	31	31	32	33			
11	埋立免許・承認面積	環境省調べ(単年)	前年の11月2日~11月1日	H26	H27	H28	H29	H30	小さいほど良い	○	環境省調べに記載がある当該地は、以前に神戸市が埋立免許を取得していたが、大阪湾岸道路西伸部事業のため、国土交通省近畿地方整備局が新たに埋立免許を得たものによる。よって実際は、新規で埋立られる海域はなかったため、「○」と評価した。
			ha	0.0	0.0	0.1	0	(131)			

【水質の保全及び管理に関する指標】

※○(進捗が見られた) △(実績が横ばい) ×(さらなる取組が必要) - (その他)

No.	指標名	実績						評価結果		(※参考) 前回の評価結果	備考 (記入要領に従い入力してください)	
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格			判定※
12	水質汚濁に係る環境基準達成状況	河川におけるBODの環境基準達成率(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	実績値が大きいほど良い	○	△	河川については、生活排水対策等により水質改善が図られ、環境基準達成率は向上した。海域については、CODの環境基準達成率は横ばいで推移しているものの、健康項目及び全窒素・全磷の達成率は100%であり、瀬戸法等に基づく規制により長期的にて水質改善が図られた。
			%	96.8	100	100	100	100				
		海域におけるCODの環境基準達成率(単年)	%	75.0	75.0	79.0	71.0	75.0				
		海域における健康項目の環境基準達成率(単年)	%	100	100	100	100	100				
		海域における全窒素・全リンの環境基準達成率(単年)	%	100	100	100	100	100				
13	水温	浅海定線調査の播磨灘水深10mの年度平均値(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	一概に言えない	-(上昇)	-(上昇)	水温により県計画の進捗を判断することは困難であるため、参考値とする。過去5年平均と比べると、R1年度は大阪湾、播磨灘、紀伊水道のいずれも高い傾向にある。
			°C	17.7	18.3	17.4	17.8	18.4				
		漁場環境調査の大阪湾水深10mの年度平均値(単年)	°C	18.0	18.5	17.8	17.8	18.3				
		漁場環境調査の紀伊水道水深10mの年度平均値(単年)	°C	18.4	19.2	18.0	18.3	18.7				
14	汚濁負荷量(化学的酸素要求量(COD)・窒素・磷)	発生負荷量管理等調査(COD)(単年)	年度	H16	H21	H26	H29	H30	COD:小さいほど良い 窒素、リン:海域濃度が望ましい濃度であれば良い	△	△	CODは環境基準非達成の水域があることから、発生負荷量の削減を進めている。窒素は、一部の水域で海域濃度が環境の保全と創造に関する条例第140条の5第1項の規定に基づく、豊かな生態系を確保する上で望ましい栄養塩類の濃度を下回っており、発生負荷量の増加が求められている。リンは、現状維持が望ましい。よって、全体として「△」と評価した。
			トン/日	61	53	43	41	40				
		発生負荷量管理等調査(窒素)(単年)	トン/日	61	53	48	49	48				
		発生負荷量管理等調査(磷)(単年)	トン/日	3.2	2.9	2.3	2.3	2.3				
15	下水道高度処理実施率	高度処理人口÷住民基本台帳人口(兵庫県下水道課調べ)(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	一概に言えない	-	-	高度処理の実施については、環境基準の達成を目的とした各下水道事業計画等に基づくものであることから、参考値とする。
			%	25	26	25	24	24				
16	漁場改善計画策定漁協の養殖生産量シェア	全養殖生産量に対する漁場改善計画策定魚種生産量の割合(兵庫県水産課調べ)(単年)	年	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	
			%	96	95	96	95	95				
17	漁場改善計画数	養殖漁場の改善に関する計画の策定数(兵庫県水産課調べ)(年度末総数)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○	
			件	10	10	10	13	13				

No.	指標名	実績						評価結果		（※参考） 前回の 評価結果	備考 （記入要領に従い入力してください）	
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格			判定※
18	エコファーマー認定件数	持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律第4条の規定に基づく認定数(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	エコファーマー：一概に言えない 環境創造型農業：大きいほど良い	○	○	
		件	1,235	1,133	993	1,032	920					
	(参考) 環境創造型農業の実施面積	各県民局(但馬を除く。)の農林(水産)振興事務所調べ(単年)	ha	20,080	22,314	22,592	22,917	20,429				
19	赤潮発生件数	「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の大阪湾延件数(単年)	年	H27	H28	H29	H30	R1	小さいほど良い	△	△	海域ごとの赤潮発生件数を長期的にみると、S50～59年頃に30～60件程度/年発生していたが、S60年代以降、大きく減少し、近年では数件～20件程度/年の範囲で推移している。令和元年度においても、同傾向であることから、全体としては「△」と評価した。
			件	16	17	15	21	29				
		「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の播磨灘延件数(単年)	件	9	7	16	14	11				
		「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の紀伊水道延件数(単年)	件	4	11	7	13	4				
	(参考) 夏の赤潮発生件数	「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の6～9月の大阪湾延件数(単年)	件	8	10	8	14	17				
		「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の6～9月の播磨灘延件数(単年)	件	4	3	5	6	4				
		「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の6～9月の紀伊水道延件数(単年)	件	2	9	3	7	1				
	(参考) 赤潮継続日数	「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の継続日数が6日以上の大坂湾延件数(単年)	件	5	3	5	7	7				
		「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の継続日数が6以上の播磨灘延件数(単年)	件	2	3	7	5	5				
「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の継続日数が6以上の紀伊水道延件数(単年)		件	2	5	4	4	1					
20	赤潮被害件数	「瀬戸内海の赤潮」(水産庁)の本県被害件数(単年)	年	H27	H28	H29	H30	R1	小さいほど良い	○	○	
			件	0	0	1	0	1				
21	汚水処理人口普及率	汚水処理人口÷住民基本台帳人口【全県】(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○	
				%	98.7	98.7	98.8	98.9				

No.	指標名	実績						評価結果		(※参考) 前回の 評価結果	備考 (記入要領に従い入力してください)	
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格			判定※
22	夏季底層DO濃度	大阪湾環境基準点の夏季(6~8月)最低値(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○	
			mg/L	1.8	1.2	1.2	1.8	1.9				
		播磨灘環境基準点の夏季(6~8月)最低値(単年)	mg/L	3.9	4.2	3.9	3.4	3.7				
		紀伊水道環境基準点の夏季(6~8月)最低値(単年)	mg/L	6.8	6.4	5.7	6.4	6.4				
23	化学物質排出移動量届出制度(PRTR)に基づく公共用水域への届出排出量	PRTR法に基づき報告を行っている化学物質の排出量(単年)	年度	H26	H27	H28	H29	H30	小さいほど良い	△	△	前回と比べると減少しているが、過去5年間で見ると変動の範囲内であり、「△」と評価した。
			トン	331	354	325	354	353				
24	油による海洋汚染の発生確認件数	第5管区海上保安部調べ(単年)	年	H27	H28	H29	H30	R1	小さいほど良い	△	△	
			件	38	28	18	17	17				
25	森林管理100%作戦事業(間伐面積)	新ひょうごの森づくりの「森林管理100%作戦」に基づき実施した間伐面積【全県】(年度末面積)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	前回と比べ増加しているが、過去5年間の推移から「△」と評価した。
			ha	120,891	124,929	128,211	131,953	135,804				
26	里山整備面積	新ひょうごの森づくりの「里山林の再生」等に基づき整備した里山林の整備面積【全県】(年度末面積)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	前回と比べ増加しているが、過去5年間の推移から「△」と評価した。
			ha	23,557	24,758	25,813	26,974	28,207				
27	水浴場の水質判定基準の達成状況	水浴場水質判定基準「可」以上の水浴場の割合(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○	
			%	100	100	100	100	100				

【自然景観及び文化的景観の保全に関する指標】

※○(進捗が見られた) △(実績が横ばい) ×(さらなる取組が必要) - (その他)

No.	指標名	実績						評価結果		(※参考) 前回の評価結果	備考 (記入要領に従い入力してください)
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格		
28	国立公園面積	国立公園の指定済面積(環境省)(年度末面積)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△
			ha	13,397	13,397	13,397	13,397	13,397			
29	森林面積	森林法に基づく加古川、揖保川地域森林計画の対象森林(民有林)に国有林等を加えた森林面積(年度末面積)	年度	H26	H27	H28	H29	H30	大きいほど良い	×	×
			ha	384,585	384,305	384,194	383,906	383,651			
30	森林整備(造林)実施面積	加古川、揖保川地域森林計画内で実行された間伐面積と造林(植栽)面積(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	間伐：大きいほど良い 造林：伐採状況に依存するため評価は行わない	△	△
			ha	間伐 2,512 造林 134	間伐 2,852 造林 61	間伐 2,333 造林 47	間伐 2,505 造林 25	間伐 2,620 造林 49			
31	保安林指定面積	瀬戸内海沿岸市町における保安林指定面積(年度末面積)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○
			ha	26,929	26,932	26,978	27,054	27,116			
32	魚つき保安林指定面積	瀬戸内海沿岸市町における魚つき保安林指定面積(年度末面積)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△
			ha	247	247	247	246	246			
33	都市公園面積	兵庫県内における都市公園面積(県立、市町立、国営の計)(兵庫県公園緑地課調べ)【全県】(年度末面積)	年度	H26	H27	H28	H29	H30	大きいほど良い	○	○
			ha	6,767	6,811	6,899	6,948	7,098			
34	都市計画法に基づく風致地区指定面積	都市環境の保全を図るため風致の維持が必要な土地について指定される地域地区の面積(兵庫県都市計画課調べ)(年度末面積)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△
			ha	14,715	14,715	14,715	14,715	14,715			
35	都市緑地法に基づく特別緑地保全地区指定面積	都市計画区域内の緑地であって、特に良好な自然的環境を形成しているもので市街地及びその周辺地域に存するものについて指定される地域地区の面積(兵庫県都市計画課調べ)(年度末面積)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△
			ha	2,970	2,987	2,987	2,987	2,987			

No.	指標名	実績						評価結果		（※参考） 前回の 評価結果	備考 （記入要領に従い入力してください）	
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格			判定※
36	史跡、名勝、天然記念物等の指定件数	文化財保護法及び文化財保護条例に基づく国及び県指定文化財等件数（兵庫県文化財課調べ）（年度末総数）	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○	
			件	108	109	110	112	115				
37	郷土記念物の指定件数	県指定数（年度末総数）	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	
			箇所	8	8	8	8	8				
38	海岸漂着物等回収量	国の補助金（海岸漂着物等地域対策推進事業）を利用して回収・処理した量（重量）（単年）	年度	H27	H28	H29	H30	R1	一概に言えない	—	—	回収量は台風等の有無により大きく変動するため、県計画の進捗を表さないの、参考値とする。
			トン	548	243	415	737	279				
39	国立公園利用者数	県内で指定されている自然公園の年間利用者数（環境省調べ）（単年）	年	H26	H27	H28	H29	H30	大きいほど良い	△	△	前回と比べると減少しているが、天候等に左右されるものであり、過去5年間で見ると変動の範囲内であることから、「△」と評価した。
			千人	15,537	16,241	15,646	16,244	15,885				
40	臨海部における親水空間（散策道、海浜公園等）の数	港湾緑地の整備済箇所数（累計）	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	
			箇所	35	35	35	35	35				
41	釣り公園等の釣り場の数	（公社）日本観光振興協会及び（公社）ひょうごツーリズム協会HP掲載の海釣り公園の数（兵庫県水大気課調べ）（単年）	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	
			箇所	6	6	6	6	6				
42	景観形成地区等指定件数	景観法及び景観条例に基づき、県内の自治体が景観形成地区等として指定した件数（兵庫県景観形成室調べ）（年度末総数）	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	△	
			件	38	39	39	39	41				
43	景観法に基づく景観計画の策定自治体数	景観法に基づき、景観計画を策定した県内の自治体数（兵庫県景観形成室調べ）（年度末総数）	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	
			団体	5	5	5	5	5				

【水産資源の持続的な利用の確保に関する指標】

※○(進捗が見られた) △(実績が横ばい) ×(さらなる取組が必要) - (その他)

No.	指標名	実績						評価結果		(※参考) 前回の評価結果	備考 (記入要領に従い入力してください)	
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格			判定※
44	漁業生産量	養殖業を除く漁業生産量 漁業・養殖業生産統計(農林水産省)(単年)	年	H26	H27	H28	H29	H30	大きいほど良い	△	×	
45	漁業者と農業者等が連携して行うかいぼりの実施箇所数	兵庫県水産課調べ(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	-	
			箇所	58	60	61	50	58				
46	栄養塩等濃度	浅海定線調査(兵庫県水産技術センター)の播磨灘表層DIN 平均値(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	実績値が大きすぎても小さすぎてもいけない	×	×	栄養塩は、食物連鎖の底辺を支える植物プランクトンの栄養であり、適切な濃度は明示されていないが、海域の生態系の維持に必要である。 播磨灘の栄養塩濃度は、大阪湾及び紀伊水道と比較して低い状態が続いている。濃度は長期的に見ると依然として低水準で推移しているため、全体として「×」と評価した。
		μ mol/l	2.3	2.1	2.0	2.6	1.6					
		漁場環境調査(兵庫県水産技術センター)の大阪湾表層DIN 平均値(単年)	μ mol/l	3.8	2.3	2.5	3.1	3.6				
47	クロロフィルa濃度	浅海定線調査(兵庫県水産技術センター)の播磨灘表層平均 値(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	実績値が大きすぎても小さすぎてもいけない	△	△	クロロフィルaは、食物連鎖の底辺を支える植物プランクトンの量を示す指標であり、適切な濃度は明示されていないが、海域の生態系の維持に必要である。 過去5年間でみると、播磨灘、大阪湾、紀伊水道は横ばいであるため、全体として「△」と評価した。
		μ g/l	2.2	2.4	1.8	2.1	1.8					
		漁場環境調査(兵庫県水産技術センター)の大阪湾表層平均 値(単年)	μ g/l	6.5	4.5	4.5	7.5	6.5				
48	水温	再掲(No.13参照)										
		μ g/l	1.9	1.7	2.6	2.1	2.3					
49	水産動植物採捕禁止区域等設定数 (参考) 保護水面指定数(上記の内数)	国及び県等が指定する水産動植物採捕禁止区域等の数(年度末総数)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	一概に言えない	△	△	適正な場所の指定が必要。
		箇所	8	8	8	8	9					
50	漁場整備事業(魚礁設置等)実施箇所数	稚魚育成場となる増殖場及び魚礁漁場の整備箇所数(累計)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○	
			箇所	167	170	175	179	183				
51	漁場環境改善面積	再掲(No.3参照)										
52	新規漁業就業者数	兵庫県水産課調べ(単年)	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	前回同様に減少しているが、過去5年間でみると変動の範囲内であり、「△」と評価した。
			人	51	49	53	42	34				

【基盤的な施策に関する指標】

※○(進捗が見られた) △(実績が横ばい) ×(さらなる取組が必要) - (その他)

No.	指標名	実績						評価結果		(※参考) 前回の評価結果	備考 (記入要領に従い入力してください)	
		内容	単位	4回前	3回前	2回前	前回	直近	指標の性格			判定※
53	里海づくり活動の取組箇所数	里海づくり活動促進業務(環境省)の件数	年度			H22	H26	H30	実績値が大きいほど良い	○	○	
		箇所			7	15	25					
54	地域団体等による藻場・干潟再生創出支援事業実施数	兵庫県水大気課支援実施数(累計)	年度		H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	○	○	
		件		5	10	15	20					
55	漁業者と農業者等が連携して行うかいぼりの実施箇所数	再掲(No.45参照)										
56	環境保全活動のイベント数	兵庫県水大気課調べ	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	前回と比べると増加しているが、過去5年間で見ると変動の範囲内であり、「△」と評価した。
			回	954	795	859	797	975				
57	環境保全活動参加者数	兵庫県水大気課調べ	年度	H27	H28	H29	H30	R1	大きいほど良い	△	△	前回と比べると増加しているが、過去5年間で見ると変動の範囲内であり、「△」と評価した。
			万人	56	63	56	60	74				

※指標の性格のうち、「一概に言えない」とは、実績値の大小(高低)のみで評価を行うことが適切ではなく、昨今の事情を勘案して評価する必要があるものが該当する。そのうち、計画の進捗を示さない指標については参考値として扱い、評価を行っていない。